

市役所職員
×
NPO法人みしまびと理事長
山本 希
さん

まちづくり特化型 最強公務員

三島市健康政策戦略室で、日々市民の方々の健康な生活を支える山本希さん。

山本さんは、公務員でありながらNPO法人みしまびとの理事長も務め、まちの「未来をつくる人をつくる」ために、みしま未来研究所をメンバーと共に運営している。公務員とNPO法人理事長、二足のわらじを履いてまちづくりに励む山本さんの想いを聞いた。

まち・ひと・しごと新聞

第7号

発行
三島信用金庫

駿東郡長泉町下土狩96-3
055-973-5730

制作

面：日本大学三島高等学校新聞部
面：熱海高等学校報道部
面：沼津東高等学校新聞部
面：釜山高等学校写真報道探究部

協力

静岡県東部地域局



みしま未来研究所で談笑する山本さん

行動力の源

山本希さんは、公務員として三島市や三島市の方々のために働いている一方、仕事以外にもNPO法人の活動で「まちづくり」について考えられている。山本さんの所属するNPO法人みしまびとは、地域活性化の拠点として「みしま未来研究所（以下、みらけん）」を運営し、新しい人々の出会いの創出を日指して活動している。

仕事とNPO法人の活動の両面から、まちづくりをする行動力の源を山本さんに聞くと、「一番の源は、『みしまびと』のメンバーと、まちを楽しくするお手伝いをする事だ」と話した。加えて「仕事でもNPOでも、純粋にまちのためにやりたいことをやっている。また、みしまびとに加入した時よりも仕事がより楽しくなった。さ

まちを楽しくするお手伝い

「みらけん」には、交流や出会い、発見を生む3つの利用方法がある」と山本さんは話す。

まず1つ目は、コワーキング施設としての利用方法だ。コワーキングとは、個人事業主やリモートワーカーなど、場所にとりつかない人々のための共有型オフィススペースである。現在「みらけん」のコワーキングでは、20名を超える多様な業種の月額会員の皆さまが、それぞれ働くサイクルで

みらけんの三つの利用方法

「みらけん」には、交流や出会い、発見を生む3つの利用方法がある」と山本さんは話す。

まず1つ目は、コワーキング施設としての利用方法だ。コワーキングとは、個人事業主やリモートワーカーなど、場所にとりつかない人々のための共有型オフィススペースである。現在「みらけん」のコワーキングでは、20名を超える多様な業種の月額会員の皆さまが、それぞれ働くサイクルで



時、三島市立公園楽寿園の市役所職員として勤務していた。また、「地域の未来をつくる人をつくる」ため、三島を舞台とした映画「怒う！(Angry the rain)」の撮影を行っていたメンバーたちがやってきました。その後、みしまびとに加入し映画製作に本格参加した山本さんは、「三島とみしまびとが大好きになった」と振り返った。

映画完成後、製作

利用している。コワーキングを併設する利点について「企画の相談や、異業種の利用者さん同士で、それぞれ別の仕事をサポートしているアットホームな環境の場だ」と語った。

2つ目の利用方法は、大・中・ミニのレンタルスペースを使用し、イベントを行ったり、教室を開いたり、講演会やパーティーをしたりするものだ。山本さんに、どのようなレンタル利用があるのか聞くと「絵画教室

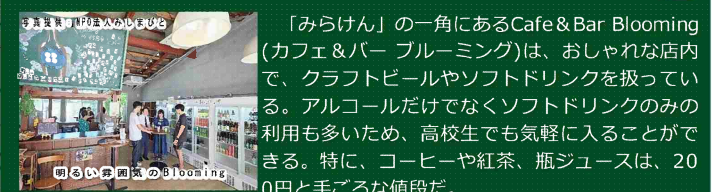


の経験を経たみしまびとは、「地域の未来を語り行動する人が育つ場所」をつくりたいと考えたという。そこで、みしまびとの理事長に就任した翌年の二〇一九年、旧中央幼稚園(二〇一〇年廃園)を「みらけん」という「場」に変身させた。「みらけん」は、出会いや学びの場だけでなく、随所に残る幼稚園の面影から、懐かしさの場としても定着し三島の中央のシンボルとなっている。



や英会話教室、そば打ち教室が行われている。その他、新しいチャレンジをする場として、マルシェやカフェを開催してくれる人もいます」と教えてくれた。また、

新しいに「場」 Cafe & Bar Blooming



「みらけん」の一角にあるCafe & Bar Blooming(カフェ&バー ブルーミング)は、おしゃれな店内で、クラフトビールやソフトドリンクを扱っている。アルコールだけでなくソフトドリンクのみの利用も多いため、高校生でも気軽に入ることができる。特に、コーヒーや紅茶、瓶ジュースは、200円と手ごろな値段だ。

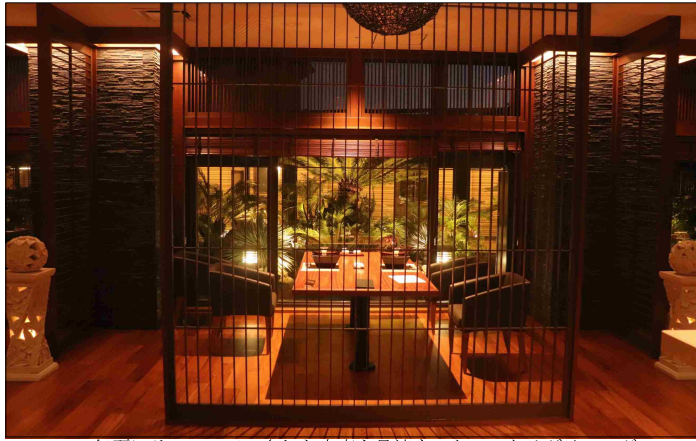
そんなBloomingに散歩途中に訪れる人、繋がりを求めて起業を考える若者、移住してきた親子など、様々な人がやってくる。年齢も業種も、目的も立場も違う人たちの「入口」として、成り立っている。ある話として、リモート授業になり、家にこもりがちになっていた大学生が、繋がりを求めてふいに立ち寄った結果、様々な職種の人と出会い夢を追いかけられるようになった。そのような風景をここでは日常的に見ることができる。『楽しさや悩みを共有できる場』『自分も何かやりたいとかりたててくれる場』『頑張れと応援してくれる場』。今日も、Bloomingは誰かの新しい「場」となっている。

編集後記

日本大学三島高等学校新聞部です。

今回、NPO法人みしまびと理事長の山本希様に取材しました。その中で私たちは、みしま未来研究所及びみしまびとが担っている、「人と人とのつながりを作る」という役割の大切さを深く知ることができました。また、それだけではなく山本様がその繋がりによって体験した事も聞くことができ、私たち自身、貴重な経験ができました。最後になりますが、このような貴重な機会を提供下さった三島信用金庫様、静岡県東部地域局様、本当にありがとうございます。

一面担当 日本大学三島高等学校
石田 耀心 望月 風花 大西 駿
石井 大翔 梅原 恒輝 神保 颯太
渡邊 菜央



2022年夏にリニューアルされた中庭を見渡すことのできるダイニング

「泊まる」だけのホテルから 「ミチカル」なホテルに

伊豆熱川温泉 熱川プリンスホテル

コロナ禍で大打撃を受けた宿泊業、宿泊者数の減少や営業休止などで四苦八苦したホテル・旅館は多いだろう。今回取材した熱川プリンスホテルもコロナ禍に苦しんだホテルの一つである。コロナ禍で苦勞したことや変化したこと、ホテルとして大切にしていること、高校生に向けたメッセージを伺った。

熱川プリンスホテルが目指すもの

熱川プリンスホテルの経営理念は「人と人との繋がりを大切に、関わる全ての人々の喜びと感動への追及を通じて、社会の進歩・発展に貢献する。」である。この「関わる全ての人」というのは、お客様や社員だけでなく、取引している会社や銀行などホテルを支えている。全手の人を指している。代表取締役社長の嶋田慎一郎さんは「いつまでも新鮮さを漂わせる、さわやかでやさしさを溢れる宿でありたい。」と語った。

コロナ禍で今までのようにお客様に密に接して、手厚いサービスが出来なくなってしまうが、直接接してサービスする時間を減らす代わりに紙媒体での案内をしたり、料理はお品書きに料理に対する思いが分かるようにしたりするなどの工夫を省略するのではなく、別の形でお客様と繋がりを保持することを心掛



代表取締役社長 嶋田 慎一郎さん

けているという。また、熱川プリンスホテルは時代に合わせホテルの形態を変化させてきたということ、その代表例として「ミチカル」という新規事業を始めたという。今年で、創業63年。次なる60年へ向けて、これからも人と人の繋がりを大切にしていくという。

カルチャーサロン「mizi-cul」とは



ミチカルが行われる部屋

ミチカルは「身近なカルチャー」の略で、熱川プリンスホテルが昨年8月から始めた新しい取り組みである。時代の変化が速い中、宿泊業だけではいけないということでスタートし、宿泊されるお客様がチェックイン前、チェックアウト後の時間に利用したり、地域の方も宿泊せずに利用できるサービスだという。

ミチカルでは「美と健康」、「ものづくり」、「伊豆の食」、「癒し」の4ジャンルの講座が行われており、例えばヨガやアロマ体験、陶芸教室、グルテンフリーのフルーツづくり、温泉を使用した石鹸作り、恋愛講座などがある。地元の良さを発信するため、講師には地元の人を起用している。その中には、大手企業で活躍された人材もあるそうだ。講師の方だけでなく、様々な人がSNSでミチカルの魅力を発信してくれることで、人と人との繋がりが広がり、新たな商品開発のアイデアにもなっている。この「ミチカル（副業）」を取り入れようと思った経緯については、「コロナ禍により大きく激変している時代に適応していくためには、大手企業で活躍された方のキャリアを活用して、永続的に経営可能な経営力を高めることが必要。片腕となって盤石な会社へと導いてくれる人材の支援を求めて参加させていただいた。」と、嶋田社長は語った。12月12日には、クリスマスバージョンのフラワーアレンジメント教室も開催された。



酒棚の扉も開けていただいた



ロビーに飾られたツリー

は月、朝の夜は満ちる。上からの眺めである。は朝の夜は満ちる。上からの眺めである。は朝の夜は満ちる。上からの眺めである。

「ミチカル」を発売させた。（上記参照）この癒しをテーマとした地域の魅力発信講座に参加することにより、宿泊客だけでなく地域の方にとっても自分磨きや自分発見の場となる。今後どのような発展していくか、大いに注目したい。

ホテルの売り

ホテルの一番の売りは、屋上からの眺めである。夜は満ちる。上からの眺めである。

県立熱海高校報道部

自分磨き・自分発見

時代に合わせ、旅館の形態を変化させた熱川プリンスホテルだが、さらに今、新しいチャレンジとして「ミチカル」を発売させた。（上記参照）この癒しをテーマとした地域の魅力発信講座に参加することにより、宿泊客だけでなく地域の方にとっても自分磨きや自分発見の場となる。今後どのような発展していくか、大いに注目したい。



熱川プリンスホテルの外観

高校生に伝えたいこと

高校生に向けて、嶋田社長に話を聞いた。「これから社会に出ていく上で、もっと色々な人とかがわって、視野を広げ、良いものを吸収してほしい。当ホテルも海外スタッフだけでなく副業人材の力も借りながら変化している。これから将来を担う人材となる高校生は、多様性が鍵となる社会の中で、より国際的に発展していく必要がある。もっと向上心を持って自分を高めてほしい。そしてできれば、様々な経験を通して、最終的には地元に戻って、地域を盛り上げてほしい。地域貢献してもらえたらとても嬉しい。」と語った。



嶋田社長（中央）と本校報道部員
伊豆熱川温泉は高台に位置し、海・雲・星空・満月など見渡す眺望と所有する豊富な温泉源が特徴的だ。海と山に囲まれた特異な地域で源泉を使った温泉は、ホテルの自慢となっている。決して大規模なホテルではないが、アットホームな雰囲気です。地元の人のみならず、癒しを求めて都会の人にも人気を博している。

編集後記

今回取材させていただいた熱川プリンスホテル様は、「まての人」との「繋がり」を何より重視しており、ミチカルのような地元の人々と繋がって提供しているサービスがあるというところがわかりました。話を聞いていると、地元の魅力を知ってもらいたいという想いやコロナ禍の影響もあって、ホテルの在り方を変えなければならぬという想いが伝わってきました。

私たちがこのような企業の動きに任せるのではなく、自分たちの住む街の将来について考えて、盛り上げていかなければいけないのかもしれない。【二面担当】

目的地を

「沼津港」へ

佐政水産株式会社

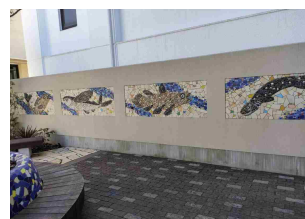
佐政水産株式会社は創業から百年以上、沼津港で水産業を営んでいる。近年は沼津港深海水族館や港八十三番地の運営の事業も始め、沼津市の活性化に貢献している。沼津港の改革について、代表取締役社長の佐藤慎一郎氏に話を聞いた。

3つの面を持つ

沼津港周辺

沼津港が有名な観光地として栄えているのは、沼津のポテンシャルを活かした佐政水産株式会社の斬新な改革に拠る所が大きい。

深海水魚を含む沢山の魚が水揚げされる沼津港は「生産地」の一面や、その強みを活かして全国に新鮮な魚を届ける「市場」としての



◀ 深海水魚をモチーフとした壁画

一面を持つ。さらに沼津港には深海水族館や新鮮な魚介を使用した飲食店、深海水族館が建ち並ぶ港八十三番地があり、アトラクションも設置されているので、漁港という特性を活かした「消費地」としての一面も持っている。



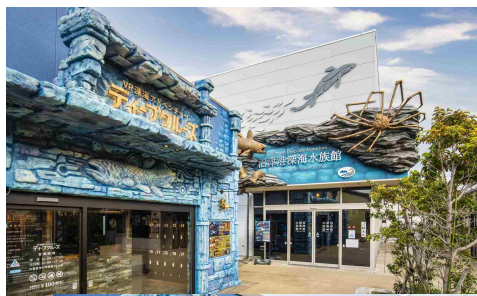
▶ 地域創生について語る 佐藤慎一郎さん（沼津東高校90回卒）

革新的な改革

佐政水産の事業は飲食やエンターテインメントまで多岐にわたる。海鮮丼や浜焼きだけでなく、イタリアンレス

トランやカフェを運営したり、パンを売ったり、深海水族館を開館したり、斬新な経営を行っている。

誰もが楽しめる空間づくり



▲一月にオープンしたばかりの新アトラクション

新事業

続々スタート

佐政水産は現在、沼津港で新事業を次々に展開している。アトラクションゲーム、バーカリー、イタリアンカフェの運営に加え、VRアトラクションも一月にオープンした。「沼津を変えるのは今しかありません。だから様々な人々の要望を満たすように新しい物を作っています」と佐藤氏は語った。

お客さんも

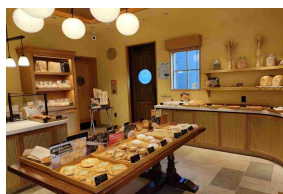
イベントなしで

人が来る場所へ

佐藤氏にとって、地域創生に大事なものは従業員も顧客も共に満足することだ。さらに、佐藤氏は「沼津市民が地元の良いところを知ることが大切だ。行政には主導よりも、後押しをすること望みます。地域

一緒に笑顔に

従業員も



▲沼津港内にあるパン屋さん

の垣根を取り、イベントなしでも人が集まる場所を作りたいと考えられています」と語った。

佐政水産の軌跡

- 1950 佐政水産株式会社 設立
- 2003 専務取締役役に佐藤慎一郎氏就任
- 2005 通販「沼津港SAMASA」開設
- 2011 港八十三番地 沼津港深海水族館オープン
- 2019 港八十三番地拡張 イタリアンレストラン、カフェバーカリーなどがオープンする
- 2021 新社長に佐藤慎一郎氏就任

沼津の持つ

ポテンシャル

沼津港周辺の改革を推し進めた佐政水産株式会社・代表取締役社長の佐藤慎一郎氏に、改革を行った理由を尋ねた。

「子どもの頃から市場でせりの手伝いをして沼津港は、深海水魚をはじめとした沢山の魚を新鮮な状態で運ぶことができるのに加え、都心にも近いので日帰りでも多くの人が観光を楽しむことができる。

編集後記

今回の取材で、沼津港の改革には、様々な工夫が施されていることが分かった。沼津港の改革を通して、沼津が多くの人々に「また訪れたい」と思ってもらえる場所となることを確信した。

【担当】

沼津東高校新聞部

好きなことで地域活性

negura campgroundオーナー 渡部竜矢さん

今回、葦山高校写真報道探究部は、negura campgroundのオーナーである渡部竜矢さんに取材を行った。キャンプ場オープンまでの道のりや、今後の展望、趣味を仕事にすることについて話を聞いた。

趣味を仕事に

negura campground
を作りあげた渡部さん

は、以前は東京でIT系の会社に勤務していた。仕事を辞めて、キャンプ場を開いた理由を聞いた。「大変で、やりたくない仕事から抜け出したい

日々思っていました。そこで、好きなことで生活したいこうと心を決め、長年の夢であったキャンプ場のオーナーになるために、土地を探し始めま

した」安定してはいるが不本意な仕事を続けていくか、未知で不安要素がありながらも好きな仕事をするか、これは渡部さんにとって大きな選択だった。迷いながらも、キャンプ場の仕事を選んだ渡部さん。「辛いことなんて何もないです。楽しいことばかり



薪割り体験をする部員

りです」と力強く語った。取材の途中、渡部さんは焚き火に火をつけ、部員に薪割り体験をさせてくれた。その様子を笑顔で見守りながら「好きなことの延長線上に仕事を考えることが大切です」と語る渡部さん。「実際に、趣味に全力を注いでいた過去が今の自分に活

函南町との繋がり 深めたい

6年前、その値段の安さなどを理由に東京で働きながら函南町の別荘地に引っ越してきたという渡部さん。美しい夕焼けや富士山、駿河湾を眺めることができるこの土地を選び、このキャンプ場を作った。キャンプ場に多くの期待が寄せられる様子を見て、次第に地元を愛する立場になつてきたことを感じているという。「函南町の人はとてもフレンドリーなので、この人たちに愛されたい」と語る。「今このキャンプ場では焚き火をするための薪の用意がとても大変です。地域と連携して間伐を行い、その間伐材

を利用して新にしようアイデアがあります。他には、地元の食材やお酒をキャンプ場で提供できるようにすることも、地元との繋がりを少しずつ深めていきたいと、いろいろなることを考えています」

～プロフィール～
渡部竜矢(わたなべ たつや)さん
・negura campgroundオーナー
函南町在住。東京のIT企業を退職後、函南町でのキャンプ場作りを決意。Twitterでの発信を経て、2021年に行ったクラウドファンディングでは、開始から3時間で目標としていた140万円を達成し、最終的に1190万円もの資金を集めた。

理想のキャンプ場へ

negura campgroundは、2021年に渡部さんが個人で始めたものだ。そこから「Fire」等のSNSで仲間を募り、いろいろな人の支援を受け、オープンに至った。「Fire」のアカウントでは、キャンプ場を作る過程をリアルタイムで発信し、働いている大人の世代的な大きな反響を呼んでいる

「好きなことを仕事にしてみたい」という夢を託すような気持ちで、渡部さんのアカウントを見守っていた人が多かったという。このキャンプ場の魅力について、渡部さんは「一番の魅力は景色です。富士山から駿河湾まで見渡せる景色は、遠くから来てくれるお客さんがとても喜びます」と語った。県内や神奈川、東京からの客が多い一方で、SNSでの発信の効果もあり、札幌

や大阪、九州地方など遠くから来る人もいます。これからも施設はどんどん充実させていくという。特に力を入れるのは管理棟だ。ただ受付をするだけではなく、バーを作ってお酒を飲めるようにしたり、音楽を流せるようにしたりするという。現在の完成度は40%くらい。渡部さんは「キャンプと音楽の組み合わせは、音楽がうろさいものとされていて、一般にはタブー視されています。キャンプ場では、なかなかないものなので実現させたいです」と熱く語った。

negura campgroundは渡部さんが思う「自分がやりたいキャンプ場」に向けて日々進化している。これからの更なる進展が楽しみだ。



キャンプ場への思い語る



キャンプ場からの景色

編集後記

薪割りの体験を通して普段の高校生活では感じられないような清々しさを感じました。また、アウトドアはたくさん魅力のあることだと気づいたのでこれからもそのような体験をして楽しんでいきたいと思います。

今回取材に協力してくださった方々に、この場を借りてお礼申し上げます。未熟な点多いですが、楽しんでいただければ幸いです。

「4面担当」

県立葦山高校

写真報道探究部